

福島県の県中・県南地域の高校で 車座意見交換会を開催しました

- ・ 目的：福島第一原発事故とメンタルヘルス、心のケア対応等について理解を深め、意見を共有する。
- ・ 開催日時：令和7年12月20日（土）9:30～11:25
- ・ 開催場所及び講師：郡山商工会議所〔講師：原田眞理（玉川大学）〕
- ・ 参加者：福島県の県中・県南地域の高校生 10名
- ・ 内容：一講話「避難者支援とメンタルヘルス」
 - 一質疑応答
 - 一グループワーク
 - 「今回の講義を聞いて県外の人たちへ自分たちが何を伝えるか」
- ・ 概要：講話では、在京避難者、役所・役場の職員、心のケア、大学生との活動について説明を受けた。その後グループに分かれ、避難者支援とメンタルヘルスについての振り返り及び意見交換を行った。参加者からは、「これまで震災や放射線について学んできたが、心理的な面での考えや学びが不足していた。その中で今回心に目を向けたことにより、これから自分がどのようにしていくべきなのかを考えることができた。貴重な時間であった。」等の意見があった。

【主な意見交換等】

- ・ 被災者から話を聞く際に、二次受傷を防ぐために行っていることはあるか。
- 専門家としてトレーニングや研修を受けることで、心の整理の仕方等を学んだりする。
- ・ 福島県民ということで嫌がらせ等を受けた際に相談できる人がいない場合、どのように対処すればダメージが少ないのか。
- 誰にも相談ができない場合は書くという方法がある。紙などに書く、スマホに打ち込むなど自分の中で文字にする行為には、昇華するという心の働きがあり、書くこと自体が昇華の作業になる。また、ひとり言で話してみることも心を昇華していく作業になる。
- ・ 放射線の知識がなく、未知のものだからこわいといったイメージを持っている人もいたため、放射線の知識を多くの人に知ってもらうことが必要だと思った。



講義の様子



グループワークの様子